学校だより

令和８年１０月３０日

深谷

１１月号

横浜市立深谷小学校

https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/fukaya



言葉の違いから広がる、コミュニケーションの輪

校長　　杉田　仁

先日行われたスポーツフェスティバルでは、温かい応援をいただき、ありがとうございました。また、ふかふか隊の方には、片付けにもご協力いただき、感謝申し上げます。

さて、大きな行事も終わり、学校では落ち着いて学習や生活に取り組む「充実の秋」を迎えています。日々の授業や友達との会話の中で、子ども達が自分の考えを深め、互いに支え合う姿には大きな成長を感じています。そうした日常の関わりの中で、今、私が改めて大切にしたいと感じているのが「コミュニケーション力」、とりわけ「言葉に対する認識の違いに気づく力」です。

近年はメールやメッセージアプリなど「文字によるやり取り」が増えていますが、表情や声のトーンが見えない文字は、言葉の受け止め方に「ずれ」が生じやすくなります。実際に次のような事例がありました。休日に友達同士で集まる約束をしていた際、ある子がメールで「何で来るの？」と送りました。送った本人は「徒歩？自転車？」と交通手段（なにで）を聞いたつもりでした。しかし、受け取った側は「『なんで（なぜ）来るの？』＝来ないでほしいということ？」と感情的な拒絶だと受け止め、傷ついてしまった、というものです。

ほんの一言、漢字の読み方やニュアンスの違いで、発信者の軽い質問が受信者には責める言葉に変わってしまう。顔や声が見えない文字だからこそ、「自分の言葉は相手にどう伝わるか」を一歩立ち止まって考える配慮が求められます。「自分が思い描くイメージと、相手のイメージは違うかもしれない」。それに気づくことこそが、本当の意味でのコミュニケーション力の第一歩ではないでしょうか。こうした「言葉のすり合わせ」は、日々の授業でも行われています。例えば、算数の学習で「分かりやすく説明しよう」という課題が出たとき、式で書く子、図を描く子、言葉で説明する子など様々です。友達の発表を聞きながら、「なるほど、その方法は分かりやすいね。」と互いのイメージのピントを合わせていくことで、対話の力が育まれます。

この「言葉の認識の違い」を楽しむきっかけは、ぜひご家庭でも取り入れてみてください。「『美味しい』ってどんな味？」「『楽しかった』ってどんな瞬間？」と尋ね合ってみると、家族でも感じ方が違うことに気づけます。また、お子様が友達とのやり取りで落ち込んでいるときには、「改札口の勘違いや『何で来るの？』の例みたいに、お互いの思い描いていた意味が少し違っていたのかもしれないね」と、一緒に相手の立場や背景を考えることも大切です。

言葉は人と人とをつなぐ温かい架け橋になる一方で、受け止め方によっては小さな壁を作ってしまうこともあります。自分と相手の違いを面白がり、お互いの言葉に耳を傾けながら丁寧に心を通わせていく。デジタルとリアルの両方で言葉が行き交う今だからこそ、子ども達の「言葉を磨く歩み」を支えていきたいと思います。

11 月もご理解とご協力・ご支援をよろしくお願い申し上げます。